

令和6年度第1回 京都府寄附控除対象特定非営利活動審査委員会議事録
令和6年度第1回 京都市控除対象特定非営利活動法人審査委員会議事録

1 日時 令和6年10月11日（金）午後1時00分から午後3時00分まで

2 場所 京都市役所分庁舎地下一階 会議室
（京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488）

3 出席者

（1）委員（五十音順）

赤澤委員【委員長】、小原委員、柴田委員、永井委員、前岡委員

（2）事務局等

（京都府）文化生活総務課 萬谷参事、担当職員

（京都市）地域自治推進室 平井地域コミュニティ活性化・北部山間振興部長、
小林市民活動支援課長、奥村担当係長、担当職員

4 議題

（1）条例指定NPO法人の外部評価結果について

（2）京都府及び京都市の条例指定の状況等について

5 公開・非公開の別 公開

6 議事の概要

（1）条例指定NPO法人の外部評価結果について

あやべ福祉フロンティア、花山星空ネットワーク、加茂女、フォーラムひこばえ、FaSoLabo 京都、京都DARC及び手をつないでの外部評価結果について、資料「条例指定法人から提出された外部評価結果」に基づき事務局から説明した。

【主な質疑応答】

<あやべ福祉フロンティアについて>

（小原委員） 前回(R5. 11. 30)の審査委員会において「理事長通信交通費」についてのコメントがあったが、今年度法人で改善されたところはあるか。

（事務局） 法人に確認したところ、今後改善を検討しているとのことであった。

（赤澤委員長） 定額での支払いとなっているが、いくらかかったのかは、はっきりさせた方がよい。

（前岡委員） 活動計算書の自家用車使用費及び燃料費補助が、数字を丸めた金額になっている。これは定額で渡しているのか。

(前岡委員) 他の費用においても、数字を丸めた金額で支払われているように見える。立て替えたものは全部出してもらってから、額の検討をされてはどうか。実態が見えないような会計ではなく、正しく計上するよう指導していただいた方がよい。

(赤澤委員長) これから長く続けていく事業だと思うので、体制等が変わったときに大変になるし、余力のあるうちに仕組みを作った方がよい。

(事務局) 自家用車使用費については、ガソリン代その他の維持費として一定額支払っているものになる。例年同じような金額が計上されており、額の決め方等は法人に後日確認する。

(永井委員) 事実を確認することに加えて、現在のやり方になっている経緯や理由を確認してほしい。特に理由がないのであれば、見直すタイミングかと思うが、スタッフの少なさ等現場の事情があり、現場として合理的な方法になっている等の理由があつてのことなのか、併せて法人に確認してほしい。

数字を丸めた金額ではなく、立て替えた領収書を全部出してもらって金額を明確にしていくべきという意見があるが、仮にそれを導入した場合の体制づくりはできそうかという点まで聞いていただかないと、この委員会の意見が現状の運営に即さないものとなり、現場も苦しいと思う。最終判断をするのは法人であり、委員会は新たな視点や持続可能な運営となる助言をするものである。現在の運営がどのような意図かということも含めて、事務局にはヒアリングをお願いしたい。

(小原委員) 前回のコメントで事業報告書と活動計算書が連動しておらず事業の実態が把握しづらいとあるが、この点はどうか。

(事務局) 法人に確認したところ、これも今後改善を検討しているとのことであつた。数字が異なる理由は、事業別に分けられない共通の経費があるからとのこと。活動計算書の方が正しい数字になる。

＜花山星空ネットワークについて＞

(赤澤委員長) 活動は非常に活発にやっけていらっしゃる。

(小原委員) 会員の確保というところが継続的な課題である。

(事務局) 新たに入会する会員はいるものの、年齢や子どもの成人を理由に退会する会員の方もおられ、結果増加はしていないという状況である。

(柴田委員) 前回の審査委員会で、「会員の新規入会や継続の動機を分析したうえで、新たな会員種別の創設を検討されたい」とコメントしているが、子どもと一緒に入会した会員が、子どもが成長しても継続して入会しているとすれば、なぜ継続しているかを分析することが一つのヒントとなるのではないか。

(永井委員) イベントには何度か参加しているが、入会に至っていないという方がいらっしゃるなら理由を分析されたらよい。

(赤澤委員長) 正会員の入会金と年会費を別々に設けている。両方払うことが、新規入会を考える人にとって、ハードルになっているのではないか。

(永井委員) イベントに参加する会員は優先申込みや参加料金の割引などメリットがあるが、参加しなくなっても、次の世代の子どもたちのために法人の事業を継続してほしいという人がいると思うので、応援会員制度などを設けて、寄附を呼び掛けてはどうか。

<加茂女について>

(小原委員) 外部評価の中で、「貸借対照表、財産目録等を整備し、監事監査に付すべきと思われるが、収支決算書の監査に留まっているのではないか。」とあるが、どういう趣旨か。

(事務局) 何をもってこのように評価されたのか、法人に後日確認する。

(小原委員) 外部評価結果への対応状況の中で、基金制度の導入対策への対応について「難しい面もあるのか」とはどういった趣旨か。

(事務局) 以前から、基金制度の導入を外部評価で提案されているが、団体内で話が進んでいないように見受けられる。現在どういう事情があるのか法人に後日確認する。

(前岡委員) 基金にお金を投じていただく方が現在いるのか。

(事務局) 令和2年度に多額な寄附があった時に提案されたものが、現在まで意見として残っているものと思われる。そもそも現在においても、基金が必要か一度議論が必要であると思う。

(小原委員) 前回のコメントで、有価証券の内訳を財産目録で明示すべきとあるが、どうなったか。

(事務局) 法人に確認したところ、明示はしているが、今回提出はしていないとのことである。

(前岡委員) その他収益にあがっている有価証券売却益は、前回のコメントで経常外収益に計上すべきとあったが、対応はどうか。

(事務局) 法人に確認したところ、次回対応するとのことであった。事務は主に理事長1人でされており、対応に限界がある。

(赤澤委員長) 担当者が事務を全て行うことには限界があり、余力があるうちに、お金を払って他の人に頼まれてはどうか。理事長は、事業の方にエネルギーが使われた方がよい気がする。

<フォーラムひこばえについて>

(赤澤委員長) 中長期計画について、職員で練り上げて作っていかうという実質的なプロセスを示されている。組織として進めていかうという姿勢が評価できる。

(小原委員) 赤ちゃんからお年寄りまでのあらゆる世代の居場所づくりという事業は素晴らしい。職員の給与体系の見直し、働きやすい職場にするという姿勢も評価できる。

(永井委員) 法人のスタンスが明確で地域に根差した素晴らしい活動をされている。利用者、ボランティア、住民が一体となって、地域の居場所づくりをされているので、地域のハブ的な施設として、これからも継続して事業を進めていただきたい。

<FaSoLabo 京都について>

(小原委員) 外部評価の中で、法人の組織運営について、「理事構成について4名の方に緩やかに関わってもらう方針を確認した」とあるが、この4名はどのような方か。

(事務局) 現在も法人の活動に関わっていただいております、社会福祉士や精神保健福祉士などの資格をお持ちの方たちである。新たな体制を見据えて、まずは、理事会にオブザーバーなどといった形で参加していただくこととされた。

(永井委員) 医療系の学会への出展や事業選択型寄附システムの設置など、チャレンジが伺える。寄附の実績はすぐには結果として出ないと思うが、寄附者の反応を見ながら、細かく軌道修正して、これからも取り組ん

でいただきたい。

また、既に実施している事業については、理解を得て寄附も得やすいと思うが、これから実施する事業については、広く呼び掛けないとなかなか寄附は集まらないのではないかと思います。

(柴田委員) アレルギーの事業となると、どうしても限られてしまうところがあると思う。企業とうまく連携を取るなどして、事業を進めていただきたい。

<京都DARCについて>

(永井委員) 寄附が減っていると言っても、令和5年度は79名の方から190万円寄附をいただいているので、頑張っておられるなという印象。中学校での出前講座や大学生との交流事業など地域とも関わっておられることを評価したい。

(小原委員) 薬物依存者本人からの相談も増えて、認知度が上がっているという点を評価したい。

(前岡委員) 相対値や絶対値基準による認定法人を目指されているということであつたが。

(事務局) 次の更新のタイミングで、相対値又は絶対値基準による認定法人となることを目指して、引き続き寄附の呼掛けに努められている。

(赤澤委員長) 継続して頑張ってください。

<手をつないでについて>

(前岡委員) 会員が減少する団体もあるところ、会員も契約数も伸びていて素晴らしい。

活動報告等の情報発信で「いいえ」を選択されているが、現在はどこで情報発信されているのか。

(事務局) 法人のホームページで、今後の活動予定等を周知されている。紙媒体としては、法人のパンフレットだけになる。

(前岡委員) 外部評価結果1(3)②の評価様式の質問項目には「会報誌等」とあるが、ホームページがしっかり更新されていれば、十分ではないか。

(柴田委員) ボランティアはどういった人が多いのか。

(事務局) 民生委員や社協職員が多いと聞いている。

(赤澤委員長) このまま事業が持続可能か危惧するところである。日々の事業がボランティアベースで行われているので、事業の運営にエネルギーが使われてしまい、寄附を集めるところまで事務を回すことが難しいと思われる。

(前岡委員) 事業を始められて数年で、会員数も少しずつ増えてきており、工夫次第で事業を拡大できる余地があるので、頑張っていて欲しい。

(赤澤委員長) 住民の助け合いで素晴らしい事業だと思う。ボランティアで賄うことが難しい事務の部分は、事務員を置いた方がよい。今の事業規模で大丈夫でも、今後無理になる可能性がある。

それと併せて、事業ベースでは、少しだけマイナスであり、人件費の負担分をどのように残していけるかということについても、今後検討いただいてはどうか。

(永井委員) この団体はどのような事業に寄附を使うかが明確にわかるので、赤い羽根募金のような形で、色々なところに募金箱を置き、寄附者に団体ステッカーのような寄附証を配る形ではどうか。活動が福祉にも通じており、この形が向きそうな気がする。

＜その他＞

(赤澤委員長) もし、事務局が法人を訪問されるときがあれば、各委員にも連絡し、一緒に話を聞きに行く機会があってもよいのではないかな。

(2) 京都府及び京都市の条例指定の状況等について

京都府及び京都市が条例指定した法人について、資料「京都府及び京都市の条例指定の状況」及び「条例指定NPO法人の寄附金の状況」に基づき事務局から説明した。